

西の魔女が 死んだ

k a h o n a s h i k i

梨木香歩

「西の魔女が死んだ」の魅力は、心情や描写、言葉のリアルさである。

この物語の主人公は、中学生のまいだ。まいはとうしても学校へ行きたくなくて、行けるようになるまで西の魔女の家でゆっくりすることになった。西の魔女というのはまいのおばあちゃんのこととをさすのだ。題名から予想はできると思うが、おばあちゃんは死ぬ。人間には死が待ち受けている。死に不安を抱いたり、死んだ後人間はどうなるのか不思議に思っている人もいるだろう。この物語では、死を生き生きと描いている。まいは、おばあちゃんが死ぬまでに話したいことがあった。でもおばあちゃんは死んでしまった。まいはそれなのにおばあちゃんの死が嬉しいのか悲しいのか分からなかった。まいは、なぜおばあちゃんの死をそれほど悲しまなかったのだろうか？おばあちゃんはそんなまいをどう思うのだろうか？人それぞれ死のとらえ方、死の後どうなるのか、この物語を読み、感じることは違うだろう。死への興味や不安がある方にぜひ読んでほしいと思う。